

 外国語教育メディア学会 LET 九州・沖縄支部だより	第 70 号 (2018 年 11 月 1 日) LET 九州・沖縄支部事務局発行 〒841-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1 福岡大学 共通教育研究センター 文系センター14 階 1419 林 幸代研究室 TEL: 092-871-6631 (内線) 3343 E-mail: secretariat@j-LET-ko.org 編集: 大下晴美・竹野茂・事務局
---	--

第 47 回 九州・沖縄支部研究大会報告

LET 九州・沖縄支部運営委員
仲山 雄二 (熊本県立芦北高等学校)

平成 30 年 6 月 16 日(土), 快晴の青空に恵まれ, 第47回 九州・沖縄支部研究大会が, 福岡大学で開催されました。

はじめに, 福岡女学院中学・高校の坂本彰男先生から「無理なく楽しく表現力が身につくスピーキング&ライティング実践—CEFR に対応した実践を求めて—」と題してワークショップが開催されました。まず, CEFR の項目について詳しく分析された上で, 生徒達に楽しくかつ確実に英語力を伸ばす方法として, 多聴多読による「ゆるなが」式学習法を発表されました。Graded Reader 等の多読書を朗読音声や読書で大量に Input する方法で, 自作の音読記録シートや手作りの Whisper Phone を活用されながら, 生徒たちが自ら「音読書」を選択して学習する様子が発表されました。そのうえで Speaking と Writing の力を伸ばす 3 Round BASE TALK & WRITE を紹介されました。ここでは, 私たち参加者が実際に体験して学ぶことができ, 各グループで歓声が沸き起こりました。ここでは, マインドマップ形式で話題を練り, 3 人一組で「話し手」「聞き手」「評価者」に分かれ, それぞれが1分間 TALK を行いま

した。それらを3回別のグループで行うことで, 自分の意見を発表し直接相手の反応を見たり, より多くの人の異なる考え方や様々な表現に触れたりする機会の重要性を体験的に学ぶことができました。そのうえで, SUCCEsS の論理構成を考えて, エッセイを書く取り組みを紹介されました。SUCCEsS とは, ①Simple(簡潔), ②Unexpected(驚きがありありきたりでない), ③Concrete(具体的), ④Credible(信頼性や説得力がある), ⑤Emotional(感情に訴えかける), ⑥Story(たとえ話や実験)のことで, 説得力のあるスピーチやプレゼンにはこの「SUCCEsS」があり, 大学生になった時に英語で自分の意見を話したり, 入試の自由英作文の対策など, 生徒たちの動機を高めて取り組まれて, これらをループリックでの評価に結び付けられていました。また, こうした学習に取り組んできた生徒達から「英語が楽しかった」というコメントを紹介いただき, 卒業後も自立的に英語を学習する生徒たちを育成できることを感じ, 学校現場での本来的な英語力の育成に多くの示唆をいただくことができました。



支部評議委員会や昼食をはさんで開会式が行なわれ、LET 九州・沖縄支部の辿ってきた歴史や大切に育まれてきた理念に触れられながら、司会を務められた副支部長の古村由美子先生(長崎大学)、支部長の長加奈子先生(福岡大学)、そして会場校の福岡大学副学長黒瀬秀樹先生(福岡大学)からそれぞれ熱いメッセージをいただきました。

講演会では、上智大学の和泉伸一先生をお招きし、「Teaching English in English in the New Era—A CLIL Approach—」という題目で、全て英語でご講演いただきました。まず、CLIL(内容言語統合型学習)の特徴である「4 つの C」(Content) (Communication) (Cognition) (Community) がそれぞれ支え合って存在していることが説明され、様々な利点や効果などについて言及されました。そのうえで、“Water Crisis”という内容の高校の検定教科書の一部を素材として、Round 式での授業展開で、「森(を見て)から木へ、そして森へ」という大きな流れをもとに長文を読んでいく授業を体験的に受講する形式で講演が行われ、高校で教壇に立つ私としては大変有意義な学びをさせていただくことができました。まず、スライドを見て、彼らは何をしているかをペア同士で話し合ったりする導入や動機づけをなされた後に、本文について内容を調べながら読む Scanning や Skimming をおこなうなどして、

まずは「森(全体)を」眺めることに終始されました。それから、本文中の Word/Phrase Hunt を行い、使用されている文法や語法についてアプローチされ、“not always”を用いての様々な英語表現を創作する試みを実践されました。そのうえで、チャンク・リーディングやチャンク・トランスレーションなどを試みさせる活動を紹介されました。ここでは、「木(詳細)を」じっくり見るという分析的な学びを試みることができました。それから、“Water Crisis”についてもっと世界的な視野で生徒たちに考えさせるために、「今後の世界人口の比率」や「世界の年代別水不足」、「仮想水の取引」等についてスライドで提示され、ペアワークなどを用いて、私たちが今後この問題にどう対処していくべきか、と壮大なテーマへと思考を誘われました。まさに、「そして森(全体)へ」と、俯瞰した大きな視点と深い解釈を求められる内容に、自然と引き付けられていきました。生徒たち自身が、言語を自己習得の学びから、4C の理念に基づき、私たち英語教師が本来生徒たちに身につけてほしい学びへと繋げられました。こうした力を生徒たち自身は本来的に望み、懂れているものだと思います。今後の授業のあり方に私自身大きな示唆を与えていただきました。



研究発表・実践報告では、2教室に分かれて、6つの発表が行なわれました。先生方の綿密な理念や授業計画に基づく多岐にわたる実

践，多角的で緻密な分析に基づく研究成果が披露されました。私も2つの教室に足を運びましたが、いずれも時間いっぱいまで質疑応答がなされるなど高い関心と呼ぶ内容でした。



シンポジウムでは、コーディネーターの川瀬義清先生(西南学院大学)から今大会のテーマである「運用力を高める4技能統合型授業に向けたアプローチ」について概要をご説明いただいた後、3名のパネリストの先生に登壇していただきました。奈良圭先生(福岡大学附属大濠中学校・高等学校)は、4技能統合型授業を支える基本の3要素として「語彙力」「文法力」「音声力」があり、授業の構成としては「知識」→「運用」→「評価」の組み合わせが大事で、これが一つでもかけるとバランスを欠くと話されました。さらに、4技能統合型授業の実践として、①All English、②トレーニングノート、③プレゼンテーションを授業の大枠に取り入れられていると語られました。また、生徒を活動に組みこませるヒントとして、先生ご自身がバスケの顧問をされているときに得られた経験を元にしたアイデアをととてもユーモラスに紹介され、身近な事柄が様々な実践のヒントになることを教えていただきました。田中十督先生(西南学院中学校・高等学校)は、4技能統合型の授業実践として生徒達が原稿なしで発表を行なう「3分でプレゼン」や、英語の多読書を用いた学習などの生徒達の活動の様子をスライドや動画で時折コミカルなアドリブを交えて紹介されながら、「英語を好きな気持ちのまま卒業させる」ことをエネルギーに語られました。細川博文先生(福岡女学院大学)は、4技能統合

型授業の足場作りとして、CIC (Classroom Interactional Competence) の育成の重要性について、系統立った分析をもとにお話をなされました。特に、英語授業における教室での雰囲気作りや教室談話に対する教師の役割の大切さ、また生徒達がインタラクションを通じて 4 技能を統合した学びを行なうための「学びの創造の大切さ」については非常に共感し、私自身今一度自分の授業を振り返り、生徒達が教室でコミュニケーション活動を積極的にはかる場面をさらに増やしていけるよう努力したいと思いました。



閉会式では、島谷浩先生(熊本大学)から、次期支部研究大会が約16年ぶりに熊本で開催されることに触れられ、次大会への力強い抱負を交えて開催校挨拶をなされて、閉幕いたしました。事務局の発表では、参加者総数約 90 名(うち、当日会員は30名)、企業協賛は 13 社より展示協賛を賜りました。



情報交換会では、講師やパネリストの先生方を交えて、話題の尽きない歓喜に満ちた意見交換が続き、盛会となりました。

LET 第 58 回(2018 年度)全国研究大会報告

LET 九州・沖縄支部運営委員
石井 和仁 (福岡大学)

LET 第 58 回(2018 年度)全国研究大会は、2018 年 8 月 7 日(火)から 9 日(木)までの 3 日間、「外国語教育における 4 技能評価の再考」という大会テーマを掲げ、第 55 回大会(2015 年度)と同じ千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)で開催されました。会場は、ライフサイエンスセンタービル全 21 フロアーのうち 5 階と 6 階を使用。5 階は、受付・業者展示・ポスターセッション(サイエンスホール)、開会式・基調講演・シンポジウム・パネルディスカッショ

ン・総会・閉会式(ライフホール)、口頭発表 3 室が当てられていましたが、6 階は口頭発表 3 室と賛助会員デモンストレーション 1 室、千里ルームでの懇親会が当てられていました。

大会初日 8 月 7 日は、各種委員会・支部長連絡会議・理事会・講演 1・シンポジウムが開催され、翌 8 日は、開会式・講演 2・総会と学会賞表彰式・研究発表 40 件・公募シンポジウム 2 件が実施されました。また、最終日 9 日は、講演 3・研究発表 34 件・公募シンポジウム 2

件・パネルディスカッション・閉会式が行われました。

参加者数は事前登録と当日受付を合わせて 412 名、その内九州・沖縄支部からは、事前登録と当日受付を合わせて 30 名が参加していました。同会場を使用した 2015 年度の参加者数は、賛助会員を除いて 442 名でしたが、九州・沖縄支部からは 24 名の参加であったため、今回、全体の参加者数は若干減少したものの、九州・沖縄支部からの参加者数は 6 名ほど増えていました。

また、出展賛助会員数は 25 社でしたが、2015 年度は 36 社であったため、3 年前の大会運営に比べて、残念ながら支出の占める割合が大きくアップしていることが予想されます。

ここからは、3 つの講演内容を概観してみたいと思います。

【講演 1】

日本人英語学習者の L2 発信技術:学習者コーパスに基づくアジア圏国際比較の視点から

石川慎一郎先生(神戸大学)

大会テーマの 4 技能評価再考の観点から、特に目下教育現場で大きな関心を集めている「書く」、「話す」能力に焦点を当てて、日本人英語学習者の現状を学習者コーパスを用いて明らかにし、教育現場への示唆を試みる内容。教育現場において書く能力の育成が最も難しいとされますが、学習者コーパスから見てくる日本人学習者が多用する特有の表現は、石川先生によれば、I think, isn't や don't などの短縮形や reason(s), so 等で、日本人学習者も多用するが、中国人学習者や韓国人学習者も多用する表現として we think や but, because などが観察されるということです。日

本人学習者による overuse の原因は、石川先生の分析によると、学習者用テキストに登場する模範例文とされる作文の型や、学習の導入段階で登場する会話例文における動詞や助動詞の短縮形が大きく影響している可能性が考えられるそうです。また、発話コーパスから見てくる日本人学習者の特徴として、発話量における国際的に際立った消極性も報告されました。

【講演 2】

センター試験「英語」を偲ぶ—統計的剖検—

荘島宏二郎氏

(独立行政法人大学入試センター)

大学入試センター試験は 2020 年をもって終了し、2021 年からは大学入学共通テストへ移行します。その結果、英語については 4 技能を測定・評価する外部資格・検定試験の利用が鍵となります。今後、英語(筆記)問題は、発音・文法・語句整序問題が出題されなくなり、テキストを読んで事実や意見等を整理・要約する力が求められ、リスニング問題では、複数の情報を聴いて判断したり、議論を聴いて要点を把握する力が問われることになります。荘島氏は長年、大学入試センター試験の英語(筆記)とリスニング問題に携わり、その結果の統計分析データを問題作題部会へフィードバックしてこられました。荘島氏は、センター試験の特にリスニング問題は、他のさまざまなリスニング問題と比較しても、非常に高い弁別性能を示しており、14 段階の能力グループを判別できるとして、その歴史に幕が降ろされることを残念に思っておられるとのことでした。

【講演 3】

Sustainability of EFL teaching: EFL 教育の持続性

野ロジュディ先生

(神戸学院大学名誉教授)

機械翻訳アプリが簡単に手に入る 21 世紀初頭の現在, Z 世代 (Generation Z) と呼ばれるデジタル機器に慣れ親しんできた世代に ELF (English as a lingua franca) としての英語教育をどのように行うべきかを考察した内容。従来の文法知識をベースとする linguistic competence に焦点を当てた教育は現実的ではなく, 新 CEFR にも述べられているように reception, production, interaction, mediation の 4 領域をカバーする communicative language competence

に焦点を当てた教育を目指すべきで, 現実の communication が社会的情報や知識構造である “genre” を通して行われることを学ぶべきであるという提言でした。

大会全体を総括すると, 今回の大会は前回の千里ライフサイエンスセンターを会場とする大会と比較して, プログラム内容の質・量ともに前回は上回る大会であったという印象を持ちました。

最後に, 関西支部の実行委員各位と展示出展していただいたスポンサー賛助会員に心より感謝申し上げます。

2018 年度支部総会報告

LET 九州・沖縄支部長
長 加 奈 子 (福岡大学)

2018 年度の支部総会は, 6 月 16 日(土)に福岡大学で開催された第 47 回支部研究大会において, 以下のように開催されました。

会場:福岡大学 文系センター棟 4 階
第 4 会議室

総会の議長には, 川瀬義清先生(西南学院大学)が選出されました。

【議題】

(1)2017 年度支部活動報告と支部決算報告について

2017 年度支部事業として, 次の様に報告され, 承認されました。

1. 開催行事関連

1) 支部研究大会

2017 年 6 月 3 日(土)

会場:佐賀大学 本庄キャンパス

大会テーマ:思考力の高まりを目指した外国語教育のあり方について—小中高大接続に寄与する言語活動の検討—

<講演>

題目:英語の読解・聴解など第二言語処理を支える認知メカニズム:実行機能(Executive Function)とは何か?

講演者:門田 修平(関西学院大学)

<ワークショップ>

テーマ:読むことの領域における思考力の
高まりを目指した英語学習の在り方

講師:日吉敬子

(佐賀県教育センター 研修課 短期研修
担当係長)

<シンポジウム>

テーマ:思考力の高まりを目指した外国語教
育のあり方についてー小中高大接続に寄
与する言語活動の検討ー

コーディネーター: 林 裕子(佐賀大学)

パネリスト:吉田 明寛

(佐賀市立本庄小学校 英語教
育推進リーダー 教諭)

日吉 敬子

(佐賀県教育センター 研修課
短期研修担当 係長)

相島 倫子

(佐賀県教育センター 情報課
情報教育担当 指導主事)

2)ワークショップ

2017 年 12 月 9 日(土) 15:30~17:00

題目:体験しながら学ぶタブレット PC を使っ
た英語学習活動

講師:中村 純一先生

(佐賀市立大和中学校 教諭)

2. 支部総会・支部評議員会

2017 年 6 月 3 日(土)

会場:佐賀大学

3. 支部運営委員会

第 1 回 2017 年 5 月 13 日(土)

会場:福岡大学

第 2 回 2017 年 12 月 9 日(土)

会場:福岡大学

第 3 回 2018 年 2 月 24 日(土)

会場:福岡大学

4. 支部研究プロジェクト

2016・17 年度

第 11 回支部研究プロジェクトチーム

テーマ:多読学習が英語力に与える影響に
ついて

研究代表者:長 加奈子(福岡大学)

5. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2017 年 5 月 9 日 第 67 号発行

2017 年 11 月 21 日 第 68 号発行

6. LET 九州・沖縄支部紀要

2018 年 3 月 1 日 第 18 号発行

引き続き, 2017 年度支部決算報告書が報告
され, 承認されました。決算報告書の詳細につ
いては, 別紙資料①(p. 9)をご覧ください。

(2)2018 年度支部活動計画案と予算案に
ついて

2018 年度支部事業計画案が次の様に提案
され, 承認されました。

1. 開催行事関連

1) 支部研究大会

2018 年 6 月 16 日(土) 会場:福岡大学

大会テーマ:運用力を高める4技能統合型
授業に向けたアプローチ

<講演>

Teaching English in English in the
New Era —A CLIL Approach—

講師:和泉伸一(上智大学)

<ワークショップ>

無理なく楽しく表現力が身につくスピーキング&ライティング実践—CEFR に対応した実践を求めて—

講師:坂本彰男

(福岡女学院中学校・高等学校)

<シンポジウム>

テーマ:運用力を高める4技能統合型授業に向けたアプローチ

コーディネーター:川瀬義清

(西南学院大学)

パネリスト:細川博文

(福岡女学院大学)

田中十督

(西南学院中学校・高等学校)

校)

奈良 圭

(福岡大学附属大濠中学校・高等学校)

2) 学術講演会・ワークショップ

2018 年 11 月(予定)

2. 支部総会・支部評議員会

2018 年 6 月 16 日(土) 会場:福岡大学

3. 支部運営委員会

第 1 回 2018 年 5 月 12 日(土)

会場:福岡大学

第 2 回 2018 年 11 月 会場:福岡大学

第 3 回 2019 年 2 月 会場:福岡大学

4. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2018 年 5 月 7 日 第 69 号発行

2018 年 11 月 1 日 第 70 号発行

5. LET 九州・沖縄支部紀要

2019 年 3 月 1 日 第 19 号発行

引き続き, 2018 年度支部予算案が提案され, 承認されました。2018 年度より, 支部分担金の割合が変更になっております。詳細については, 別紙資料②(p. 10)をご覧ください。

(3) 2019 年度支部研究大会について

2019 年度支部研究大会の実行委員長と会場校について, 次のように提案され承認されました。

開催日:2019 年 6 月 会場:熊本大学

大会実行委員長:島谷 浩先生(熊本大学)

(4) 支部研究プロジェクトの廃止について

支部の研究活動の活性化のために, 1993 年より続けてまいりました支部研究プロジェクトですが, ここ数年, 応募がゼロの年が続いています。そのため, 一旦, 支部研究プロジェクトの制度を廃止し, 支部の研究活動活性化の方策について, 新たに見直すことが提案され, 承認されました。

報告

(1) 2018・2019 年度支部役員について

2018・2019 年度の支部役員について, 別紙資料③(pp.11-12)のように報告されました。支部長, 副支部長, 理事は 2017 年度第 3 回支部運営委員会において選挙により選出されました。その後, 事務局長, 事務局幹事, 会計監査, 運営委員, 評議員, 各種委員会委員を含めて, 3 月に支部メーリングリストにおいて, ネット稟議が行われ, 承認されております。

以上、ご報告いたします。

資料① 「2017 年度決算報告書」

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 2017年度決算報告書

2018年3月31日

収入の部

項 目	予算	決算	内 訳	
前年度繰越金	245,506	245,506		
学会費	828,000	798,000	個人会員 @6,000 ×122件 学生会員 @3,000 ×6件 団体会員 @6000 ×8件	1件 (2014), 1件 (2015), 2件 (2016), 130件 (2017), 2件 (2018) 732,000 18,000 48,000
雑収入	319,000	422,622	1. 展示協賛金 279,622 2. 広告掲載料 90,000 3. 寄付金その他 0 4. 紀要投稿料 48,000 5. 学会当日会員資料代 5,000	13社 (14区画) 支部紀要広告協賛 (第17号 6社) 支部紀要第17号・18号投稿料 支部研究大会当日会員資料代 (1000円×1名, 500円×6名)
支部積立金より繰入	200,000	162,904	支部積立金より繰入 (2018年3月31日付 支部積立金残高: 2,000,336円)	
合 計	1,592,506	1,629,032		

支出の部

項 目	予算	決算	内 訳	
支部大会開催費	400,000	324,493	プログラム・発表要綱印刷費、パネリスト旅費・宿泊費、講演講師謝金、懇親会主催者負担分、学生アルバイト謝金、実行委員会およびアルバイトお弁当代	
学術講演会・ワークショップ	30,000	20,780	講師謝礼・交通費、懇親会費 (講師分)	
印刷費	260,000	172,456	支部紀要第17号 146,880円、封筒 24,516円、各種委員会資料印刷等 1,060円	
通信費	100,000	55,611	郵送料	
会議費	100,000	97,692	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部評議員会等の開催に伴う経費	
旅費交通費	270,000	279,729	支部運営委員会、紀要編集委員会の開催に伴う旅費補助	
事務用品費	15,000	9,510	ラミネーター代	
雑給	58,000	54,160	事務局謝礼、事務局アルバイト	
支部分担金	127,050	127,000	812,000円×15% (50円は切り捨て)	
支部研究プロジェクト補助費	0	0		
業務委託費	75,000	74,067	会費徴収委託料	
支払い手数料	10,000	6,588		
支部積立金	0	0		
支部運営予備費	147,456	0		
次年度繰越金	0	406,946		
合 計	1,592,506	1,629,032		

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長

松崎 淑

以上、相違ありません。

会計監査

林 千晶

会計監査

岡田 美鈴

資料② 「2018 年度予算案」

外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部 2018年度予算

2018年4月1日

収入の部

項 目	予算額	備 考	前年度予算	差 額
前年度繰越金	406,946		245,506	161,440
一般会費	771,000	個人会員 @6,000 ×117件 702,000 学生会員 @3,000 ×7件 21,000 団体会員 @6,000 ×8件 48,000	828,000	▲ 57,000
雑収入	349,000	内訳1. 展示協賛料 200,000 2. 広告掲載料 100,000 支部紀要第18号への広告掲載料 3. 寄付金その他 1,000 寄付、利息等 4. 紀要投稿料 48,000 支部紀要第18号への投稿料	319,000 200,000 85,000 1,000 23,000	30,000 0 15,000 0 25,000
支部積立金より繰入	0	(2018年3月31日付支部積立金残高：2,000,336円)	200,000	▲ 200,000
合 計	1,526,946		1,592,506	▲ 65,560

支出の部

項 目	予算額	備 考	前年度予算	差 額
支部大会開催費	380,000	大会開催準備金、第47回支部研究大会プログラム・発表要綱、講演者謝金、会場使用料、アルバイト謝金、講師旅費、プログラム郵送費等	400,000	20,000
学術講演会・ワークショップ	30,000	秋季1回（ワークショップ）	30,000	0
印刷費	300,000	支部紀要第18号、封筒等の印刷	260,000	▲ 40,000
通信費	100,000	送料	100,000	0
会議費	50,000	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部大会実行委員会、評議員会等の開催に伴う経費	100,000	50,000
旅費交通費	350,000	支部運営委員会、紀要編集委員会等への参加補助	270,000	▲ 80,000
事務用品費	15,000	宛名ラベル、領収書、PPC用紙、文具等	15,000	0
雑給	58,000	事務局アルバイト、事務局謝礼	58,000	0
支部分担金	143,640	本部への支払い (0.18 ×798,000)	127,050	▲ 16,590
支部研究プロジェクト補助費	0		0	0
業務委託費	75,000	会費徴収委託費	75,000	0
支払い手数料	10,000	振り込み手数料等	10,000	0
支部積立金	0		0	0
支部運営予備費	15,306		147,456	132,150
合 計	1,526,946		1,592,506	65,560

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 林 幸代

資料③ 「2018・2019 年度の支部役員」

2018-19 年度 外国語教育メディア学会 九州・沖縄支部役員

名誉支部長

池浦 貞彦（福岡教育大学名誉教授）

支部長

長 加奈子（福岡大学）

副支部長

植田 正暢（北九州市立大学）

古村 由美子（長崎大学）

事務局長

林 幸代（福岡大学）

理事

長 加奈子（福岡大学）

植田 正暢（北九州市立大学）

古村 由美子（長崎大学）

島谷 浩（熊本大学大学院）

支部幹事

大園 修一（九州産業大学）

佐々木 有紀（福岡大学）

会計監査

岡田 美鈴

（北九州工業高等専門学校）

林 千晶（福岡女学院大学）

運営委員（50 音順）21 名

麻生 雄治（宮崎公立大学）

荒木 瑞夫（宮崎大学）

石井 和仁（福岡大学）

植田 正暢（北九州市立大学）

大下 晴美（大分大学）

大園 修一（九州産業大学）

大津 敦史（福岡大学）

川浪 一也

（福岡大学附属大濠中学・高等学校）

佐々木 有紀（福岡大学）

島谷 浩（熊本大学大学院）

竹野 茂（宮崎公立大学）

田上 優子（福岡女子大学）

長 加奈子（福岡大学）

筒井 英一郎（北九州市立大学）

Joseph Tomei（熊本学園大学）

中野 秀子（九州工業大学大学院）

仲山 雄二（熊本県立芦北高等学校）

林 幸代（福岡大学）

古村 由美子（長崎大学）

松崎 徹（筑紫女学園大学）

米岡 ジュリ（熊本学園大学）

評議員（50 音順）32 名

* は運営委員を兼ねる

麻生 雄治*（宮崎公立大学）

荒木 瑞夫*（宮崎大学）

石井 和仁*（福岡大学）

植田 正暢*（北九州市立大学）

大下 晴美*（大分大学）

大園 修一*（九州産業大学）

大津 敦史*（福岡大学）

奥田 阿子（長崎大学）

奥田 裕司（福岡大学）

柿元 悦子（九州産業大学）

柏木 哲也（北九州市立大学）
川浪 一也*
（福岡大学附属大濠中学・高等学校）
佐々木 有紀*（福岡大学）
島谷 浩*（熊本大学大学院）
竹野 茂*（宮崎公立大学）
田上 優子*（福岡女子大学）
長 加奈子*（福岡大学）
筒井 英一郎*（北九州市立大学）
綱 智子（福岡教育大学非常勤）
Joseph Tomei*（熊本学園大学）
東矢 光代（琉球大学）
中野 秀子*（九州工業大学大学院）
仲山 雄二*（熊本県立芦北高等学校）
新田 よしみ（福岡大学）
林 幸代*（福岡大学）
林 日出男（熊本学園大学）
古村 由美子*（長崎大学）
冬野 美晴（九州大学）
松崎 徹*（筑紫女学園大学）
安浪 誠祐（熊本大学）
山本 佳代（宮崎大学）
雪丸 尚美（北九州市立大学）
米岡 ジュリ*（熊本学園大学）

学会誌編集委員

志水 俊広（九州大学）
松崎 徹（筑紫女学園大学）

東矢 光代（琉球大学）
国際交流委員
Joseph Tomei（熊本学園大学）

学会賞選考委員

島谷 浩（熊本大学大学院）

ブログ担当委員

麻生 雄治（宮崎公立大学）
筒井 英一郎（北九州市立大学）

支部紀要編集委員

古村 由美子（長崎大学）
荒木 瑞夫（宮崎大学）
大藺 修一（九州産業大学）
柏木 哲也（北九州市立大学）
田上 優子（福岡女子大学）
冬野 美晴（九州大学）
米岡 ジュリ（熊本学園大学）

「支部だより」編集委員

大下 晴美（大分大学）
竹野 茂（宮崎公立大学）
事務局

事務局からのお知らせ

【新会員（2018 年 10 月 19 日現在）】

<正会員>

李 熙卿（久留米大学）
石原 知英（鹿児島大学）
永末 康介（北九州市立大学）
竹安 大（福岡大学）

<学生会員>

上運天 美都子（琉球大学大学院）
江下 陣（筑波大学大学院）

【2018 年度ワークショップ】

2018 年度ワークショップが以下の日程で開催されます。

日時:2019 年 1 月 12 日(土) 15:30～17:00
会場:福岡大学
タイトル:「どんな教材でも4技能と高次元思考の英語授業に出来る! :CLIL 授業の実践と授業デザイン」
講師:田中十督先生
(西南学院中学校・高等学校)
参加費:無料

【第 48 回支部研究大会】

第 48 回支部大会を以下のように計画中です。
開催日:2019 年 6 月上旬
場所:熊本大学
大会テーマ等につきましては、現在検討中です。詳細が決まり次第、支部ホームページでお知らせいたします。

【FLEAT VII】

LETと米 IALLT の合同で開催する FLEAT VIIが以下の日程で開催されます。(第 59 回 LET 全国大会を兼ねています。)

日時:2019 年 8 月 6 日(火) ～ 9 日(金)
会場:早稲田大学

【会費納入のお願い】

2018 年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されていると思います。まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします(個人会員・団体会員は 6,000 円、学生会員は 3,000 円)。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力お願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>
<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒814-0180
福岡県福岡市城南区七隈 8-19-1
福岡大学 林 幸代 研究室内